

無痛分娩入院～出産までの流れ

当院は硬膜外麻酔による無痛分娩を行っています。

入院

- 更衣をしたら、検尿・血圧・体温測定をしたり、バースプランの確認をしたりします。
- 母子健康手帳・健康チェックシート・麻酔同意書(産科編・麻酔科編)をお預かりします。

モニター装着

- 赤ちゃんの健康状態や子宮収縮の程度を確認するために、モニターを装着します。母子の状態が問題なく、お産の進行が緩徐な時期は数時間おきに行いますが、母子の健康状態を持続的に観察する必要がある場合やお産が進行している場合、麻酔開始後は出産まで装着し続けます。

血管確保

- 硬膜外麻酔カテーテルを挿入する前に血管確保をして、点滴を開始します。
- 麻酔薬の使用によって血圧が下がりやすくなったり、薬剤のアレルギーなどのトラブルがあった際にすぐに対応するためです。

カテーテル挿入

- 硬膜外麻酔カテーテルの挿入はできるだけ日中に行います。痛みに対する不安の軽減や急激なお産の進行に備えましょう。夜間など時間外の硬膜外カテーテル挿入は時間外加算が別途かかります(別表参照)。
- 夜間・時間外に入院された場合は、陣痛発来後に硬膜外麻酔カテーテルを挿入します。

麻酔開始

- 硬膜外麻酔カテーテル挿入後すぐに麻酔を開始するわけではありません。お産の進行に勢いがつき始める子宮口4-5cm開大頃を目安にしています。ただし、緊張が強い場合やお産の進行が早いと判断される場合には子宮口が4-5cm開大するより前に麻酔を開始することもあります。逆に、お産の進行が麻酔によって妨げられていると判断する場合には、麻酔量を減らしたり、投与を中止することもあります。
- 麻酔開始後は固形物の摂取は原則できなくなります。ゼリー飲料や飲み物でエネルギー補給をすることになります(妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病の方は、医師の指示によりこれらの摂取も制限があります)。
- 麻酔投与中は麻酔による母体の状態を観察するために、心電図・血圧測定・酸素飽和度計を装着します。
- 麻酔により下肢に力が入りづらくなったり、尿意を感じなくなることがありますので、適宜導尿をします。

出産

- お産の進行が麻酔によって妨げられていると判断する場合には、麻酔量を減らしたり、投与を中止することがあります。
- 会陰切開などの縫合の際に必要なならば局所麻酔を併用することがあります(別途料金)。

カテーテル抜去

- 産後の処置が終了したら、硬膜外麻酔カテーテルを抜去します(出血が多い場合などは、出血が治まるのを待って抜去することもあります)。以降の鎮痛は内服薬で行います。カテーテル抜去部には絆創膏を貼りますので、翌日のシャワーの際に剥がしてください。